

みである。

(未完)

一口ばなし

●或人がよそへ御遣ひ物に入尾の大鏝を持つて行きました。所が、先方は大變な不機嫌で、いやも一散々に怒り散らすので、此方は少し勃然して、何故そんなに怒るかど聞いた所が『鏝を入尾持つて來たのだから。しかれ、いふんだと思つて』といふから『いや夫は大變な違だ、私の方では、よかれ、の積で八尾持つて來ました』

●或貧乏人の酒香が、毎夕飯の時、おかみさんに二錢づゝ渡して酒を買つて來て貰つて夫を何よりの樂にして居ました。所が或時大變お金に困つて、おかみさんに相談しました所、おかみさんは、いくらといふことを聞いて『その位なら』と

いつて澤山一厘錢を、サシに挿いたのを出して來ました。主人は吃驚して『どうしてこんなに、貯めて居つたのか』と聞いた。すると、おかみさんは『あなたか毎晩二錢づゝお酒を買つて來いといつて、お渡し下さるのを、すまぬと思つたが、一錢九厘にして其一厘を貯めて置きましたのです。今日の役に立つたのです』と答へました。そこで主人は大變に感心して『それでは、これからお酒を已めれば、一層澤山貯るだらうから、今晚かぎりも一已めにしよ』とゆゝので、お酒を已めました。

さてそれから暫たちまして、又々お金に困つたことが出來たので今度こそはと思つて早速おかみさんに相談しました、所がおかみさんの云ふには『もうわれつきり、あなたお酒を買つたことがあ

りませんでしたから、一厘も貯りよーがありませんでした』

考へもの

前號の解

- (一) 黒い羊は 殆世の中にありませんから
- (二) 時間

この次の考へもの

- (一) 可愛い一人兒の旅立どかけて
- (二) 曲つた杉の木どかけて なんとく。



家庭



清潔と快樂

香園 女史

清潔といふことは誰しも好まないものはありませ  
 んが 往々奇麗といふことゝ世の中では間違られて  
 何でも美しく飾らなければならぬといふ様に思  
 ふ人もありますが此處で申します清潔は即ちサツ  
 バリとする事であつて左程六かしい事でなく又別  
 段金銭を費さなければ出来ぬといふ事でもあり  
 ませぬ併何處如何なる場所にても如何なる物にも